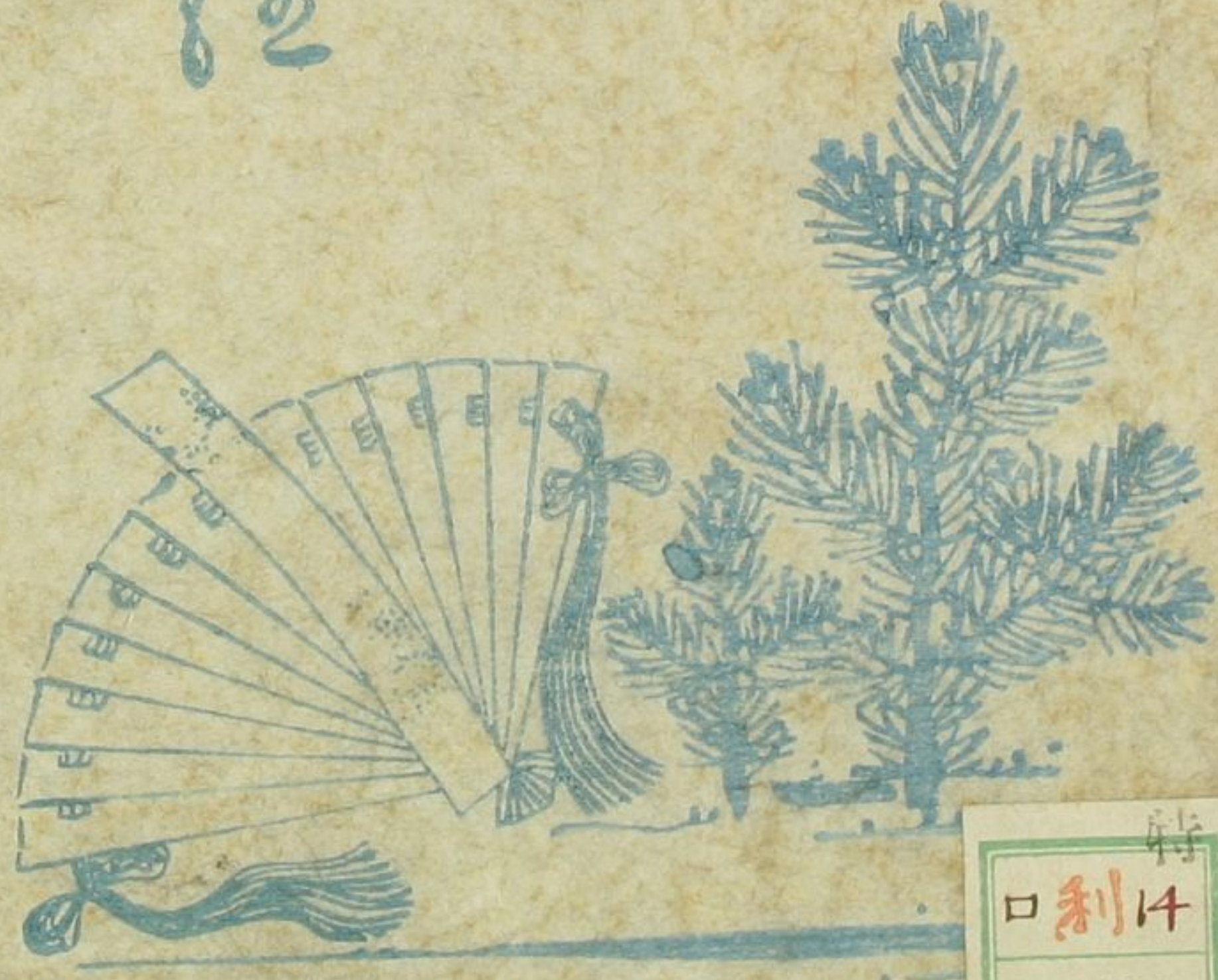




東都書肆

清光樓梓



百人一首  
 尾  
 尾

利什  
 2778



利口門  
特  
號 3777  
卷 2778

大正七年三月六日  
室井平藏氏贈

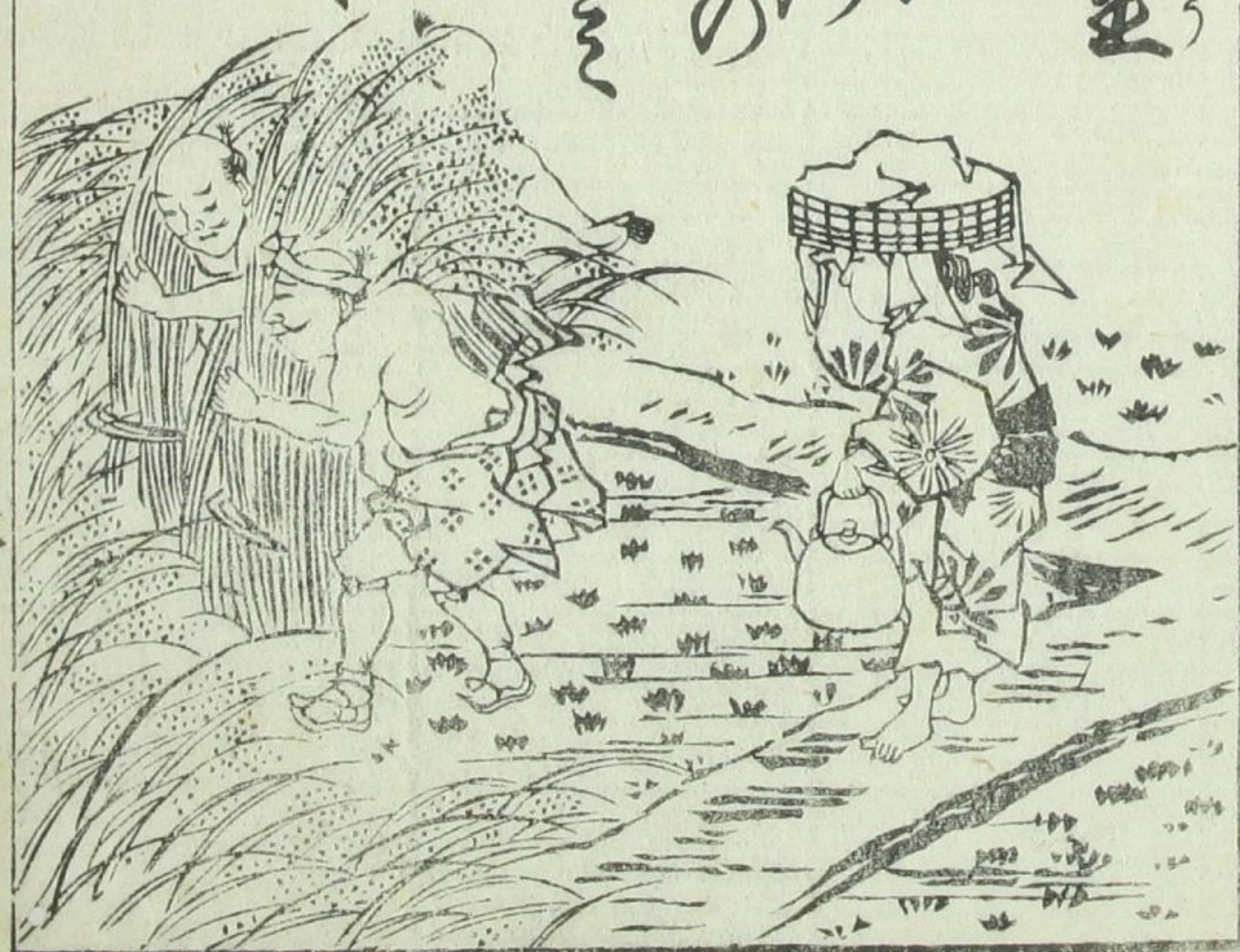
百人一首傳歌白序

萬國の歌七道  
神皇正統記  
事考  
の  
序

（以下は手書きの序文が省略されています）

百人一首倭歌占

天智天皇  
秋乃田れ  
のりか  
の  
管原河  
夜は  
ほゆふ  
あま



和歌のまじりのまじりて  
指紙の雲紙から入神  
をうわふ形類小用ひ  
小倉百をそのまじりて  
このまじりて久く都方  
此方藤原のついでが  
為の神占の徳を記す

勸業堂主人誌



山色  
赤人  
田子の浦よ  
うららかに  
白妙乃  
たろ  
あつら

柿本  
人磨

乃  
なご  
ひらり  
おん

持統天皇  
まこと  
あつら  
あつら  
あつら

天れ  
あつら  
あつら



あつら  
あつら  
あつら  
あつら  
あつら

積丸

中納言  
あつら  
あつら  
あつら

あつら  
あつら  
あつら  
あつら

安倍仲磨  
あつら  
あつら  
あつら

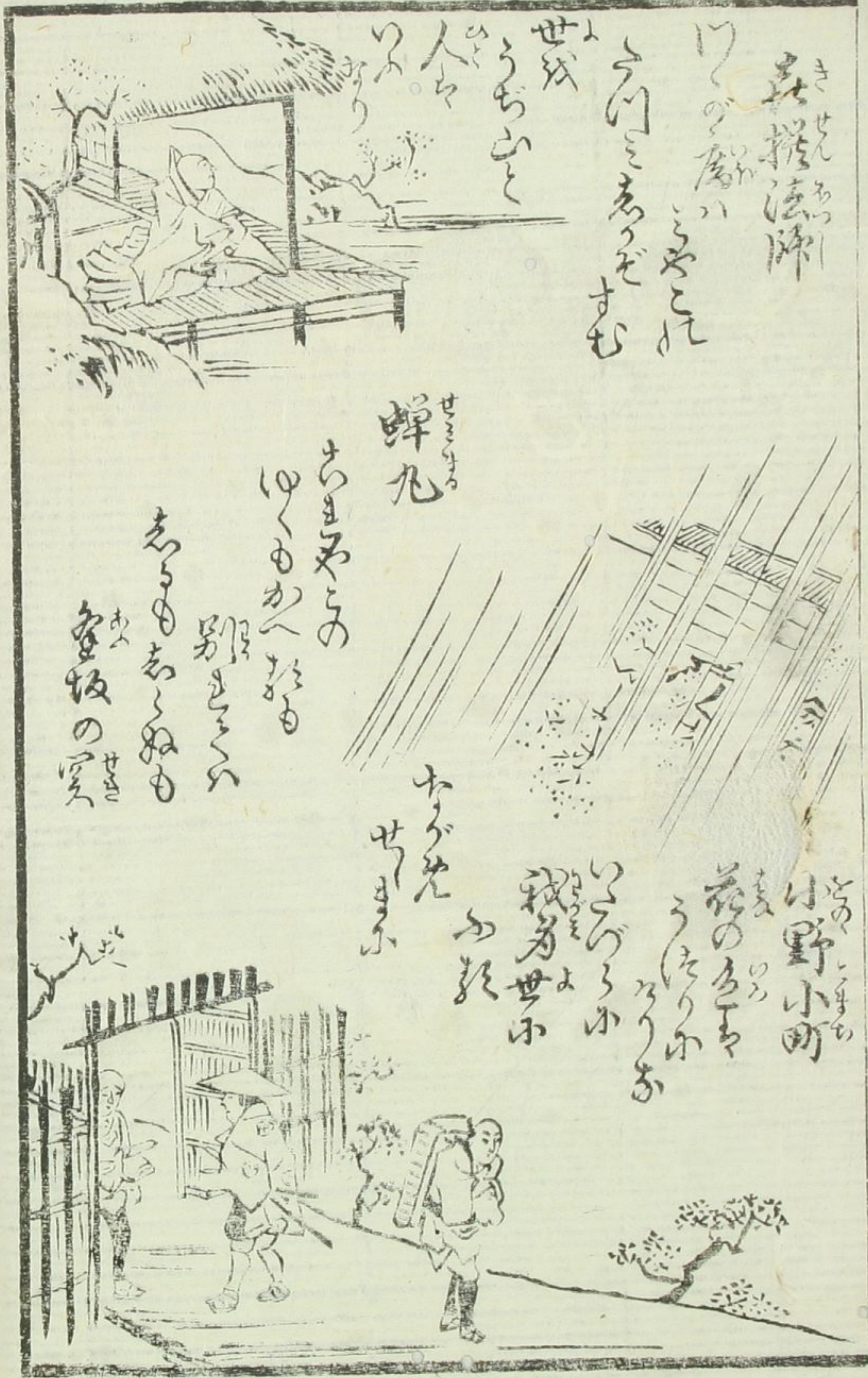
あつら  
あつら  
あつら  
あつら



冬後堂  
和の東  
人  
舟

遍昭  
天保

陽成院



法隆寺

蟬丸

小野小町



あけのぼりゆく  
 在来業平

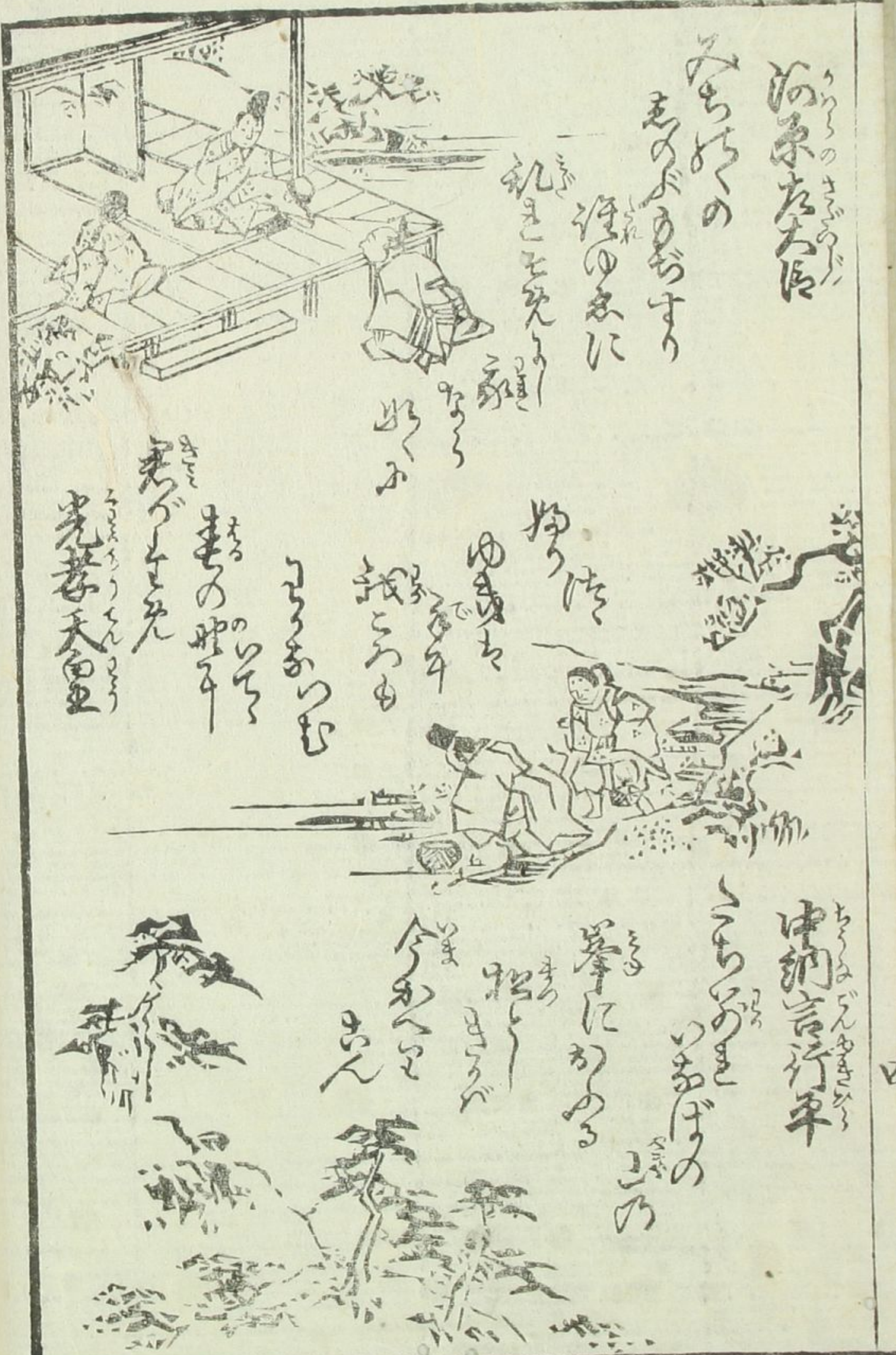
あけのぼりゆく  
 在来業平  
 水つれよ

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日  
 水つれよ

あけのぼり  
 朝日  
 水つれよ

あけのぼり  
 朝日  
 水つれよ



あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

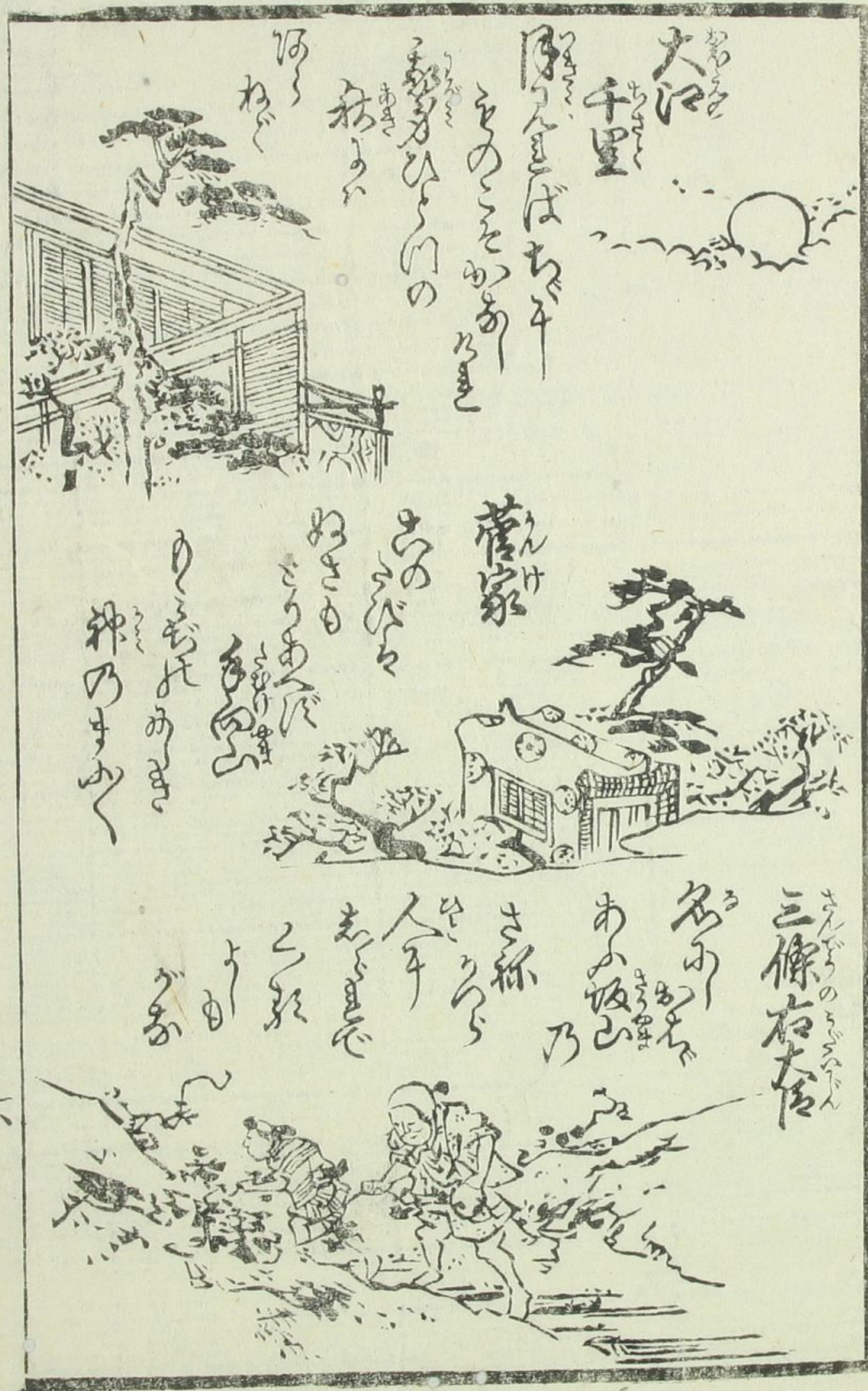
あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日

あけのぼり  
 朝日



大江  
千里

月夜はあや  
そのこゝろあ  
なま

あき  
あき  
あき

あき

菅家

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

三條右大臣

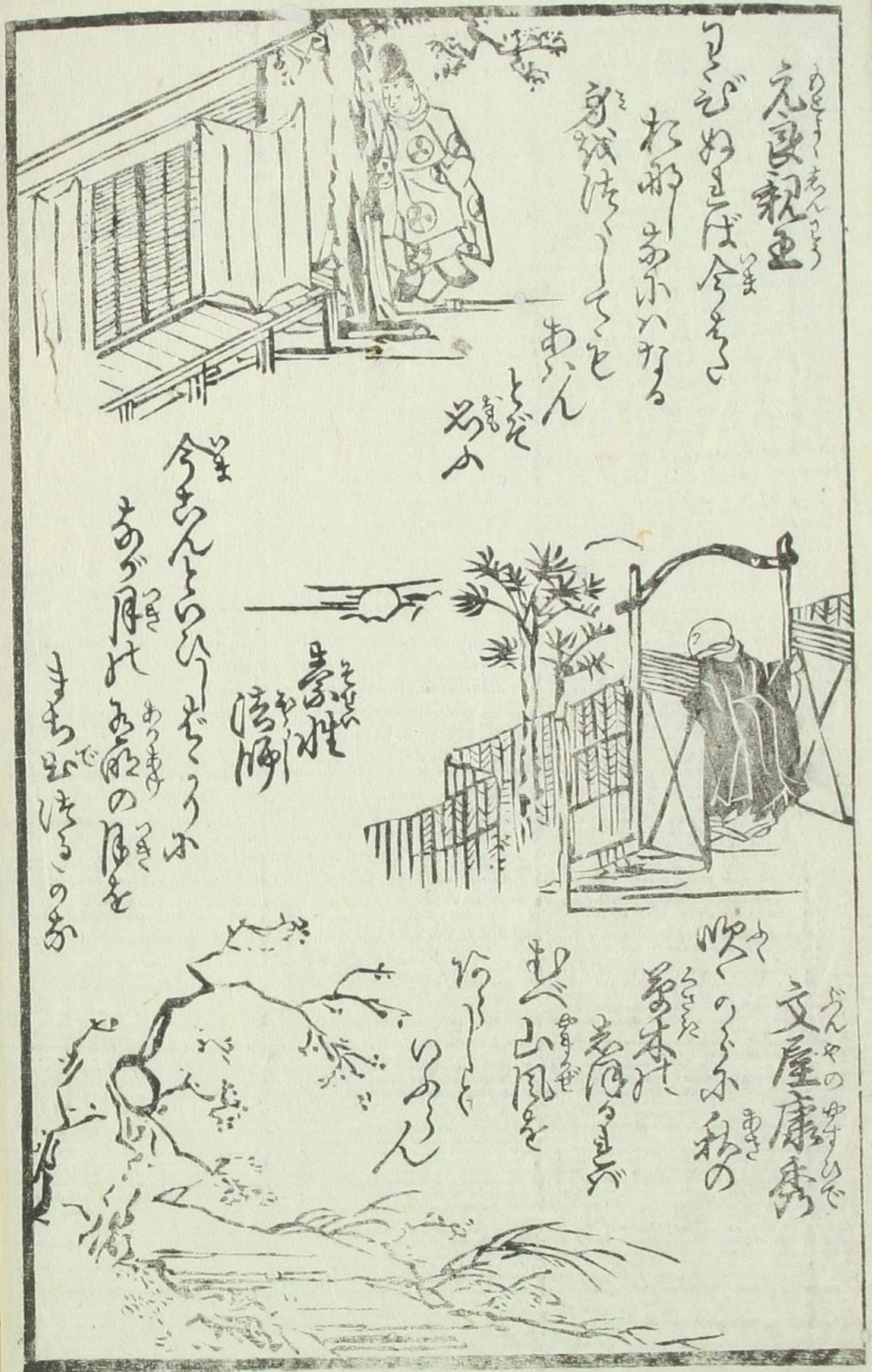
あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき



元良親王

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

孝性  
信阿

あき  
あき  
あき

文屋康秀

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき

あき  
あき  
あき



貞信公  
小倉山  
みゆの  
こゝろ  
今昔  
みゆに  
まへ  
まへ



源宗于朝臣  
山田  
人  
は  
泉川  
みづ  
中納言  
あか  
あか  
あか



凡河内新垣  
あか  
あか  
あか  
あか

忠実  
あか  
あか  
あか  
あか

坂上是則  
あか  
あか  
あか  
あか





紀伊  
 人といは  
 るる者  
 けいひ  
 ぬに  
 けいひ  
 ぬに

清系  
 深き  
 解  
 月  
 解  
 月  
 解  
 月

文屋  
 朝  
 輝  
 けり  
 けり  
 けり  
 けり



春道  
 山川  
 あいぬ  
 紀伊  
 春道  
 山川  
 あいぬ  
 紀伊

紀友  
 花の  
 紀友  
 花の

文屋  
 朝  
 輝  
 けり  
 けり  
 けり  
 けり



壬生忠見

壬生の忠見  
あすのつらみ  
つらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ

清水元捕

清水元捕  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ

中納言教忠

中納言教忠  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ



右近

右近  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ

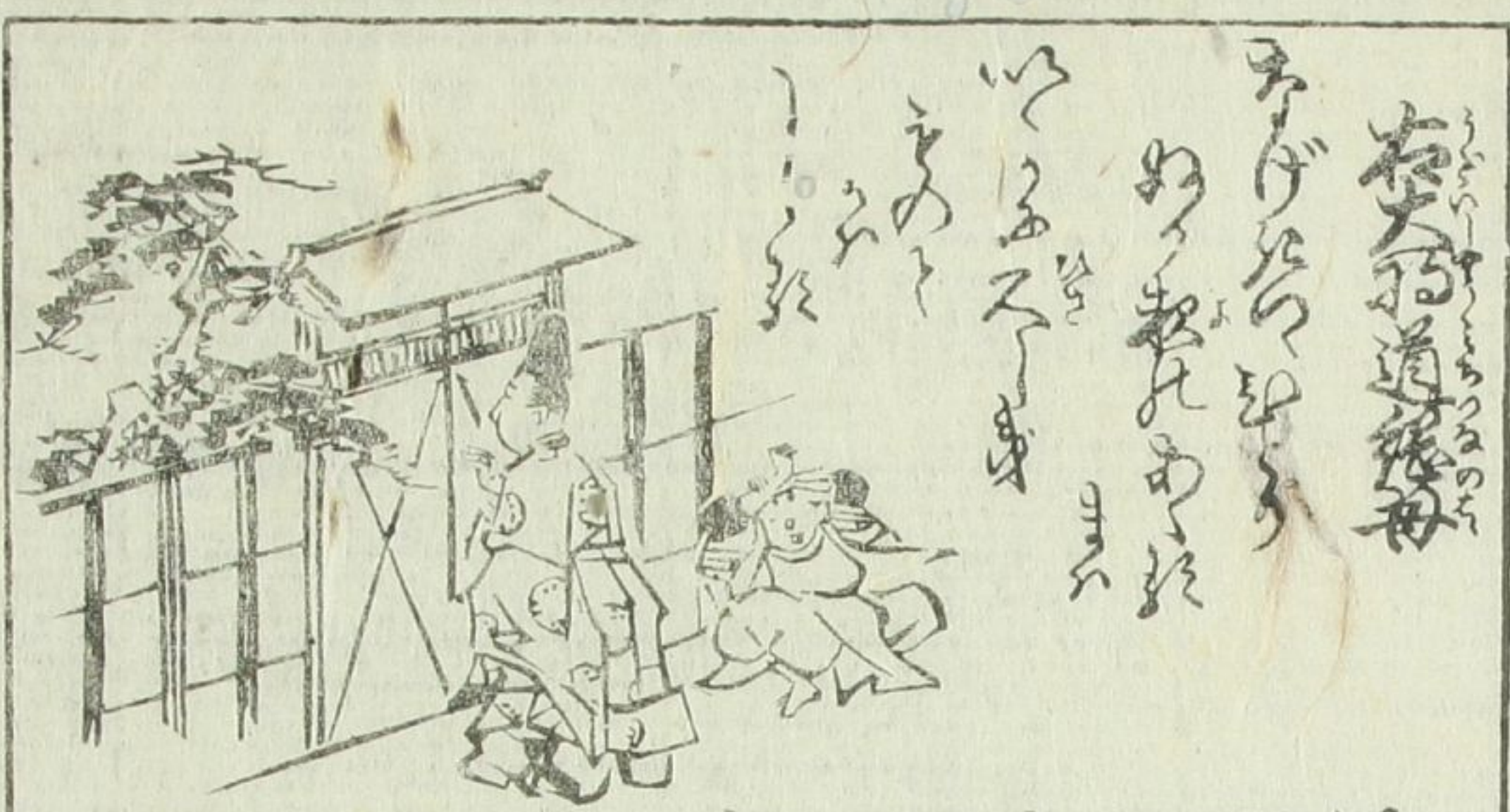
冬後等

冬後等  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ

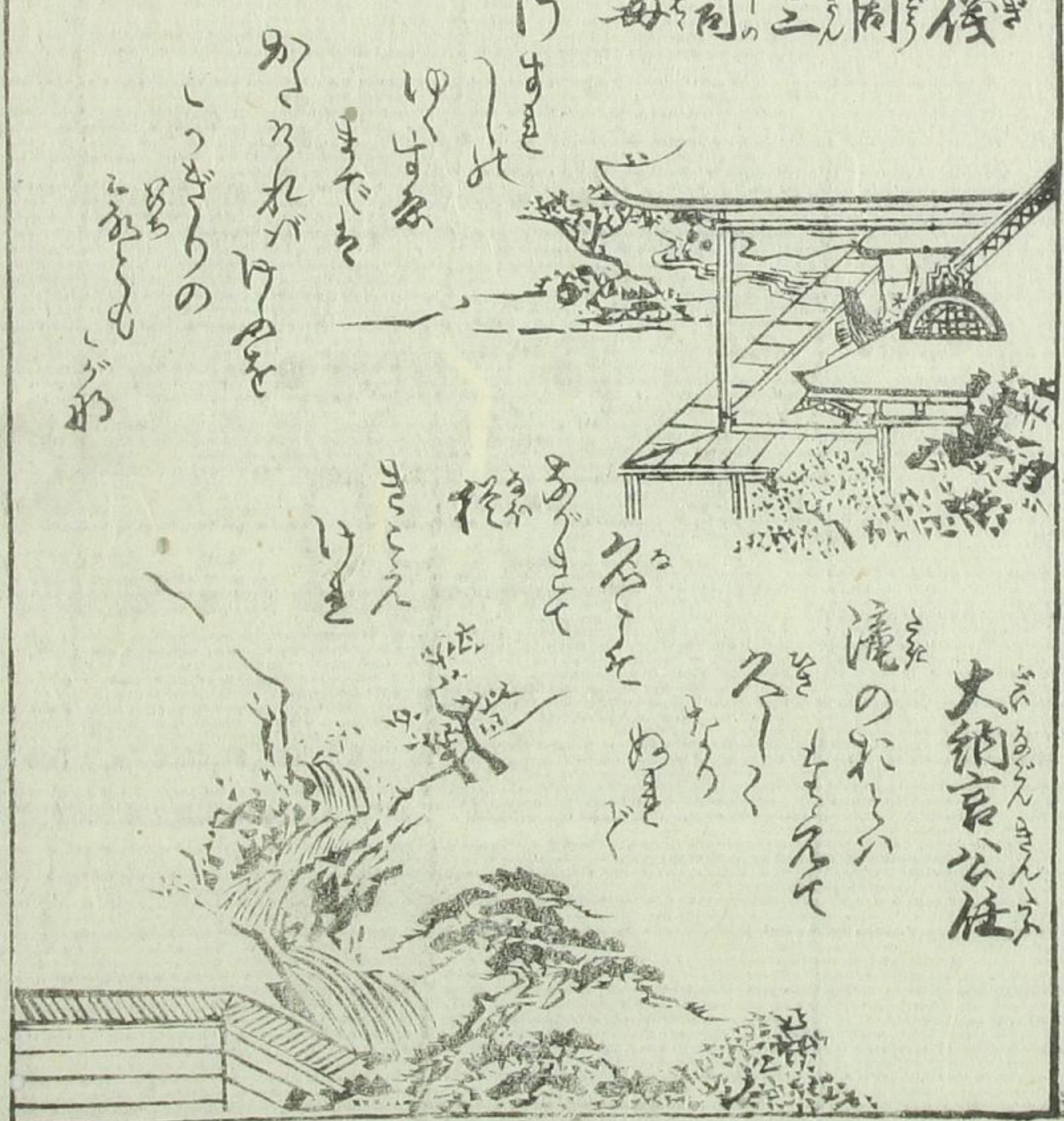
平兼盛

平兼盛  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ  
あすのつらみ



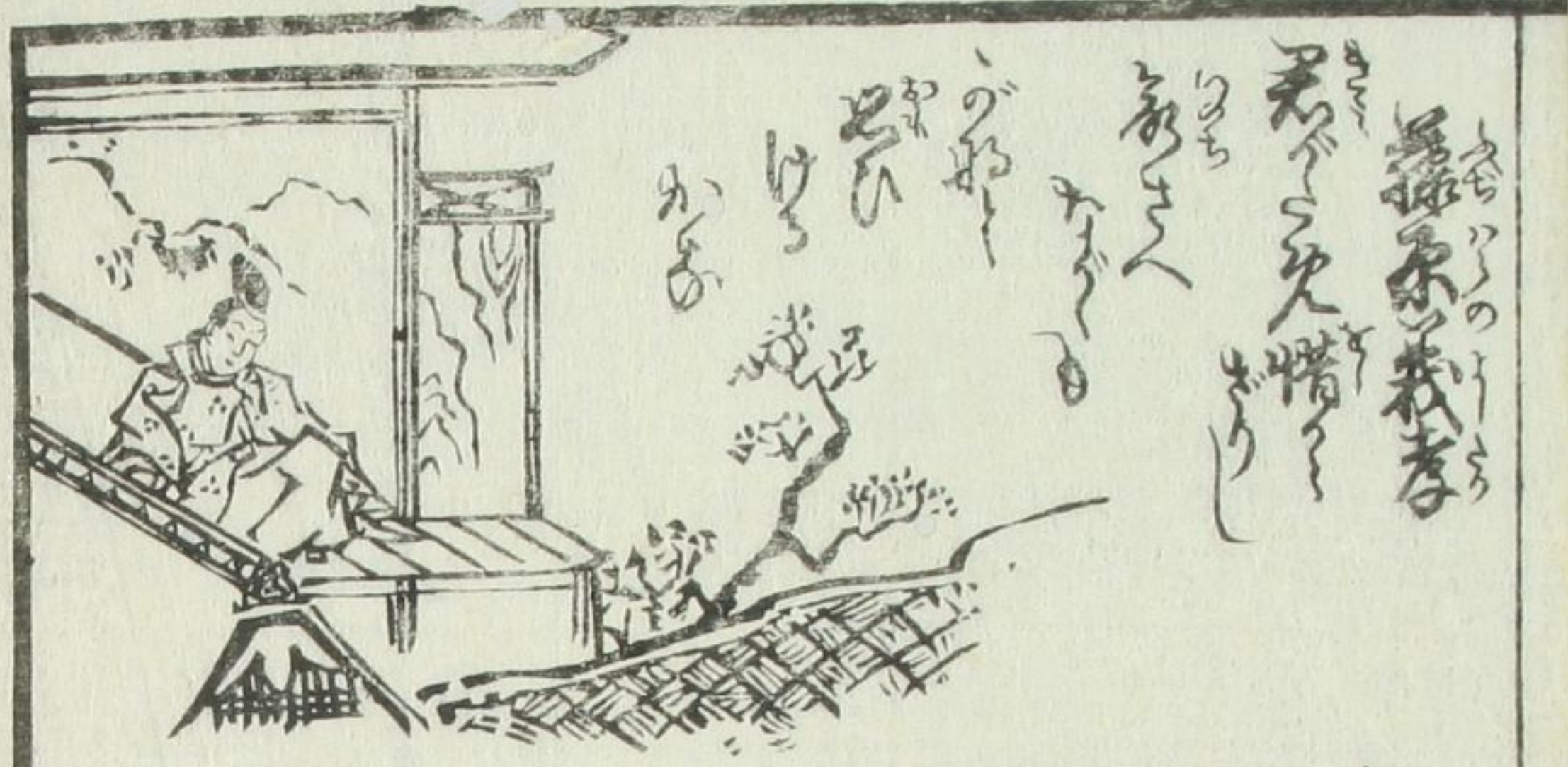


大納言の道徳  
 おかげのついで  
 おれおれおれ  
 いふす身  
 さあ  
 さあ



後三河同の母に  
 かゝれば  
 けいさ  
 しつぎりの  
 むかし  
 が  
 あらま  
 し  
 けい  
 まい  
 けい  
 しん  
 けい  
 まい  
 しん  
 けい  
 まい  
 しん  
 けい  
 まい  
 しん  
 けい  
 まい  
 しん

大納言公任  
 滝のたへ  
 けい  
 まい  
 しん



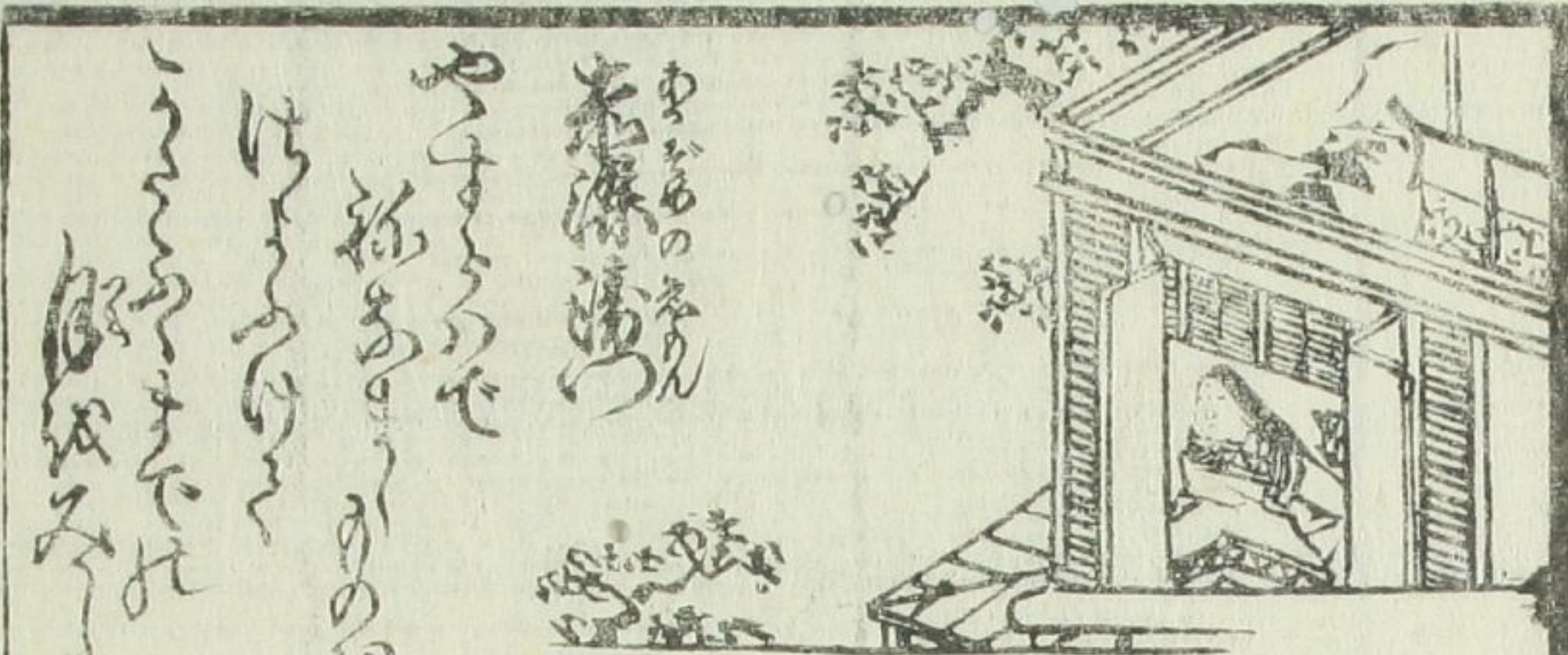
藤原の義孝  
 天の元膳  
 しん  
 さき  
 かま  
 けい  
 まい  
 しん



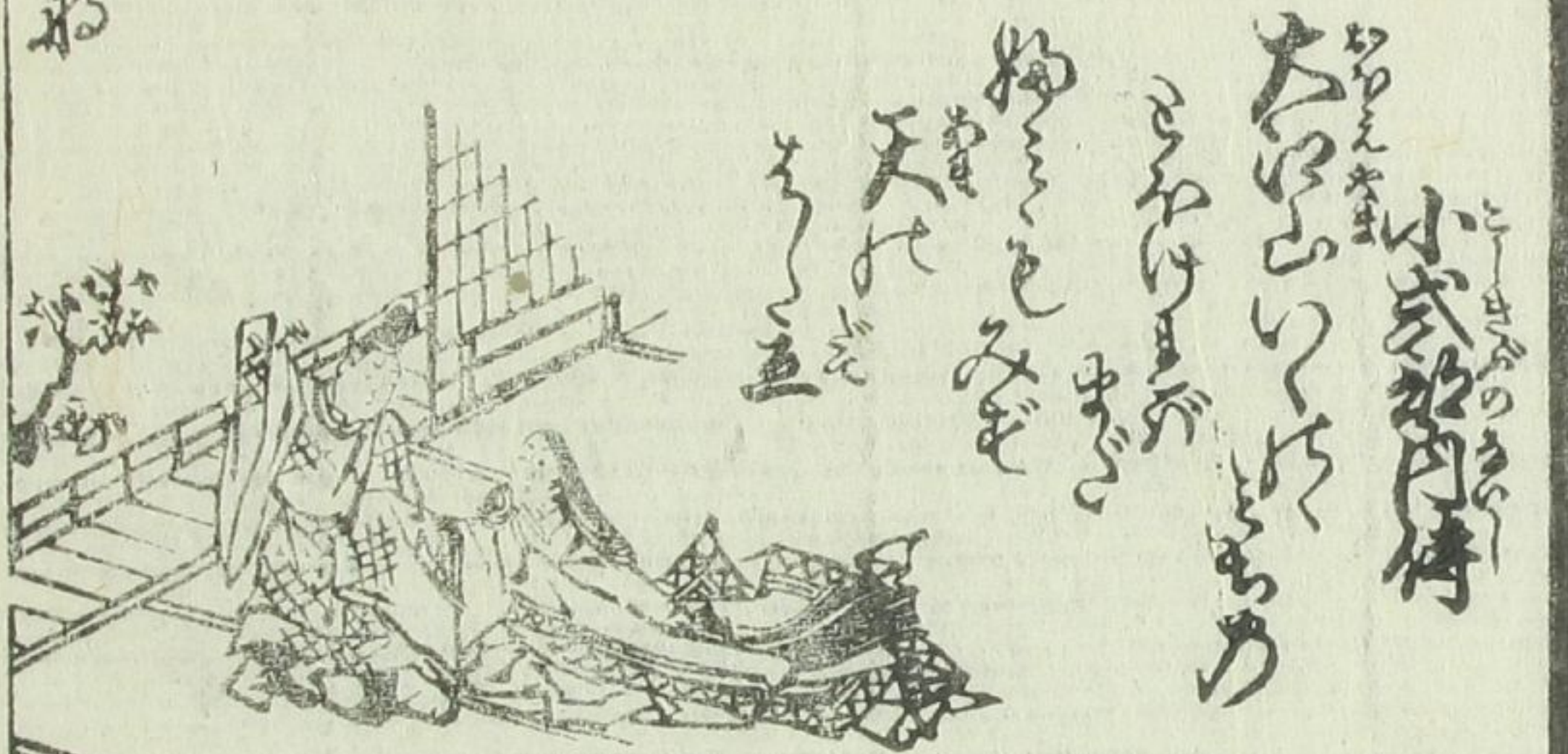
藤原の  
 実方  
 けい  
 まい  
 しん  
 さき  
 けい  
 まい  
 しん  
 さき  
 けい  
 まい  
 しん



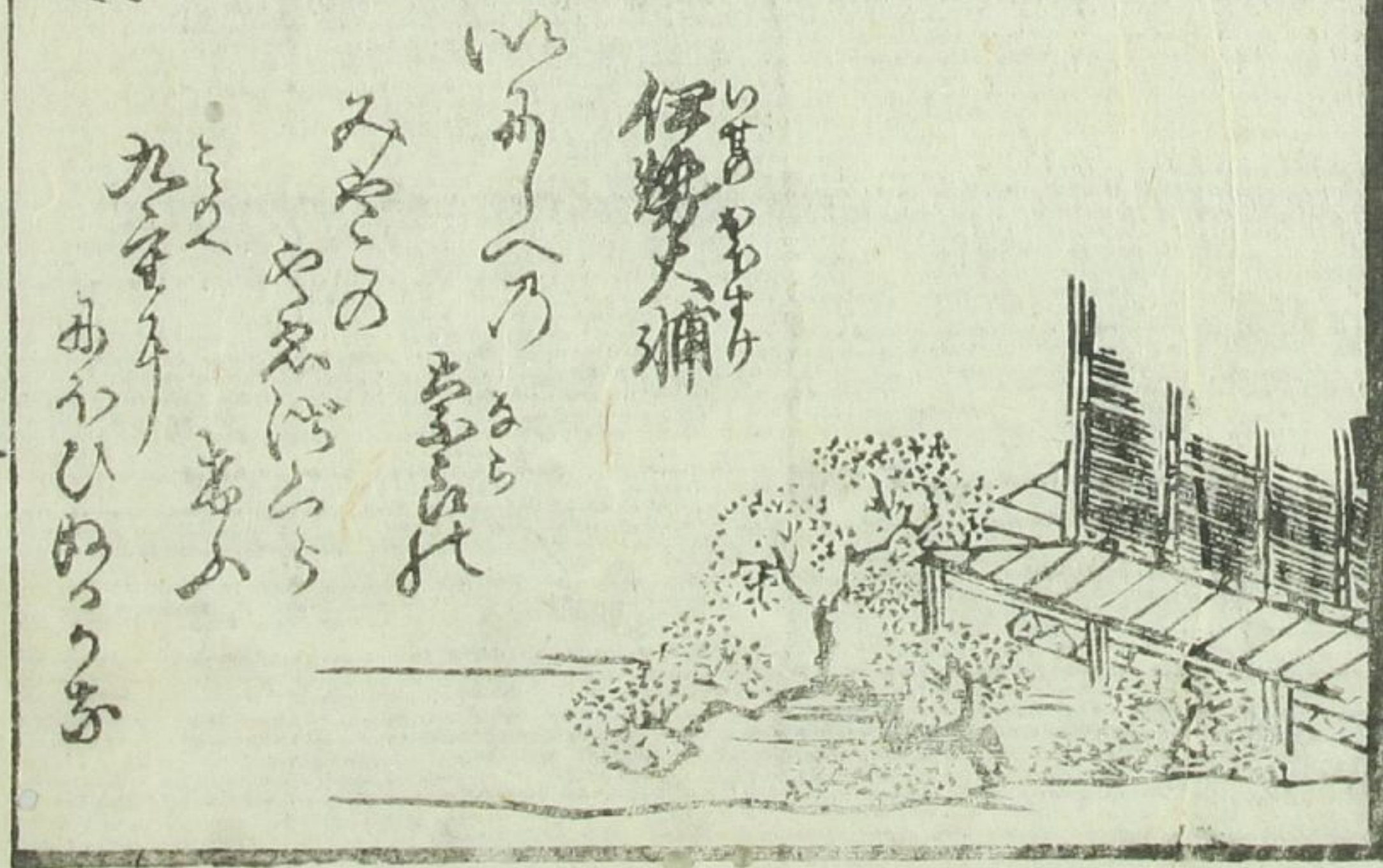
藤原道信の  
 母のまは  
 る  
 けい  
 まい  
 しん  
 さき  
 けい  
 まい  
 しん  
 さき  
 けい  
 まい  
 しん



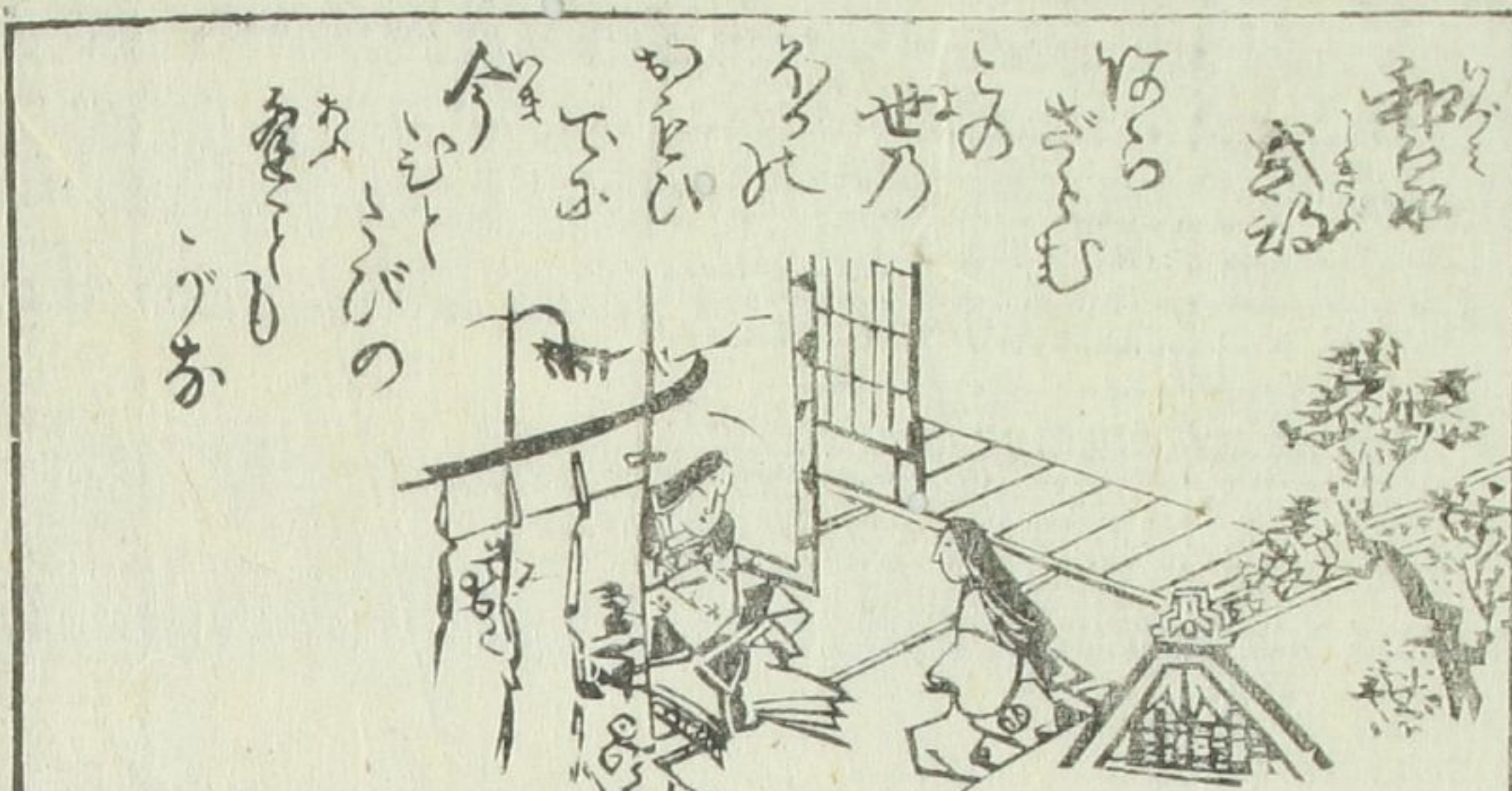
わが家の客の  
来深遠の  
やすらふ  
わが家の  
わが家の  
わが家の



おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの



おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの



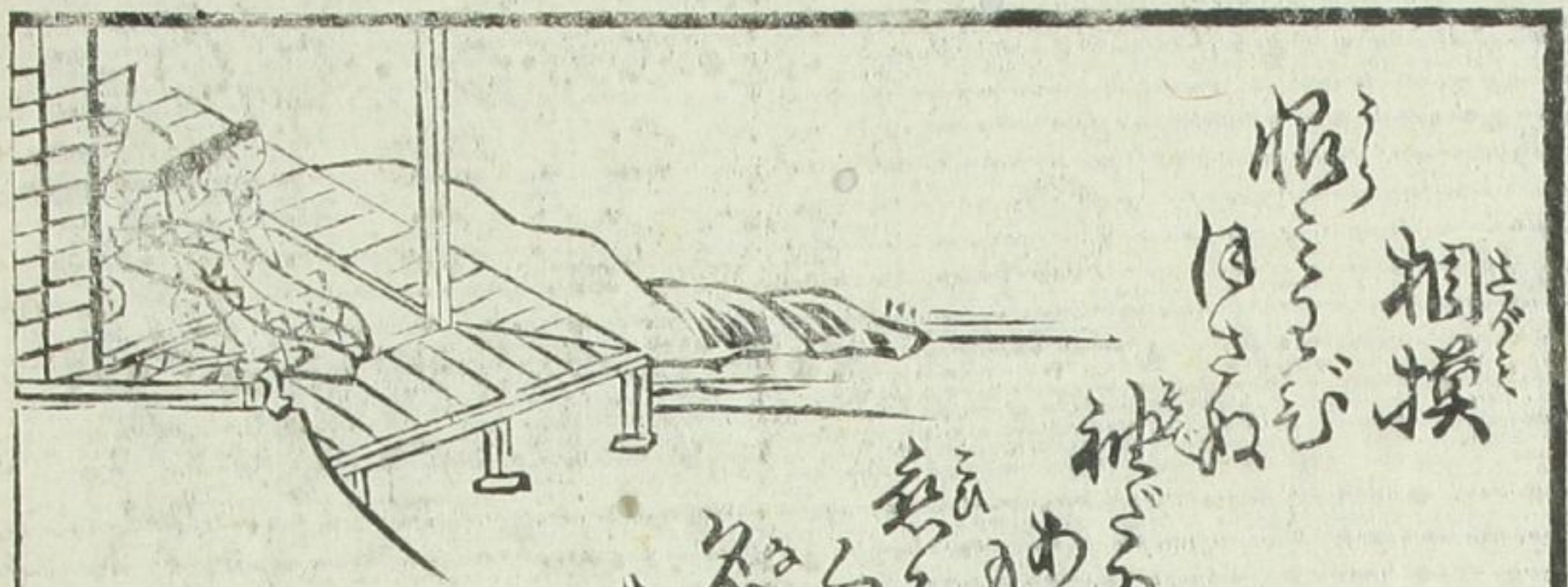
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの



おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの



おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの  
おんなの

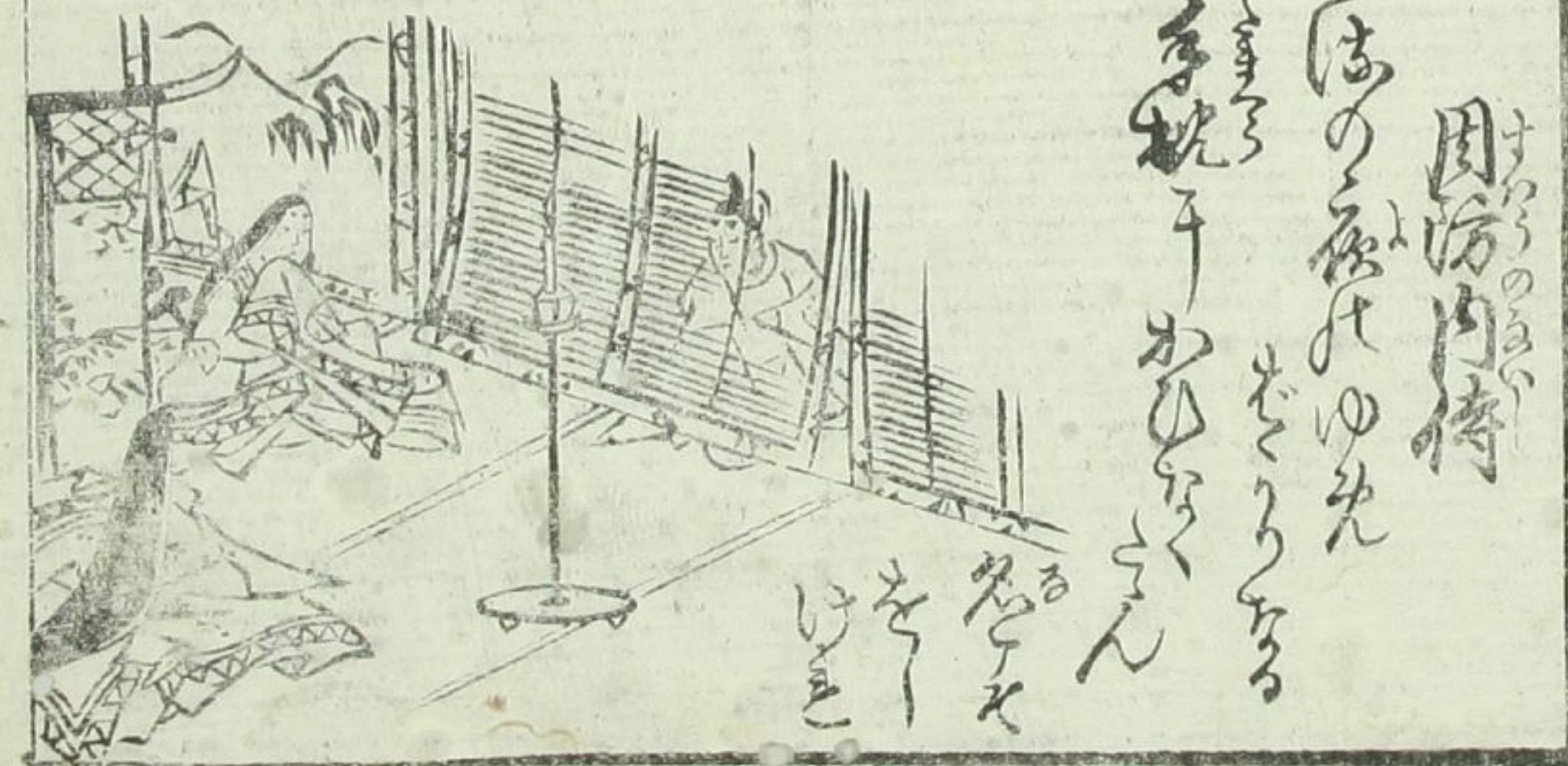


相換  
目さぬ  
神

無年  
あつた  
かき  
けこ



お大徳  
あつた  
かき  
けこ

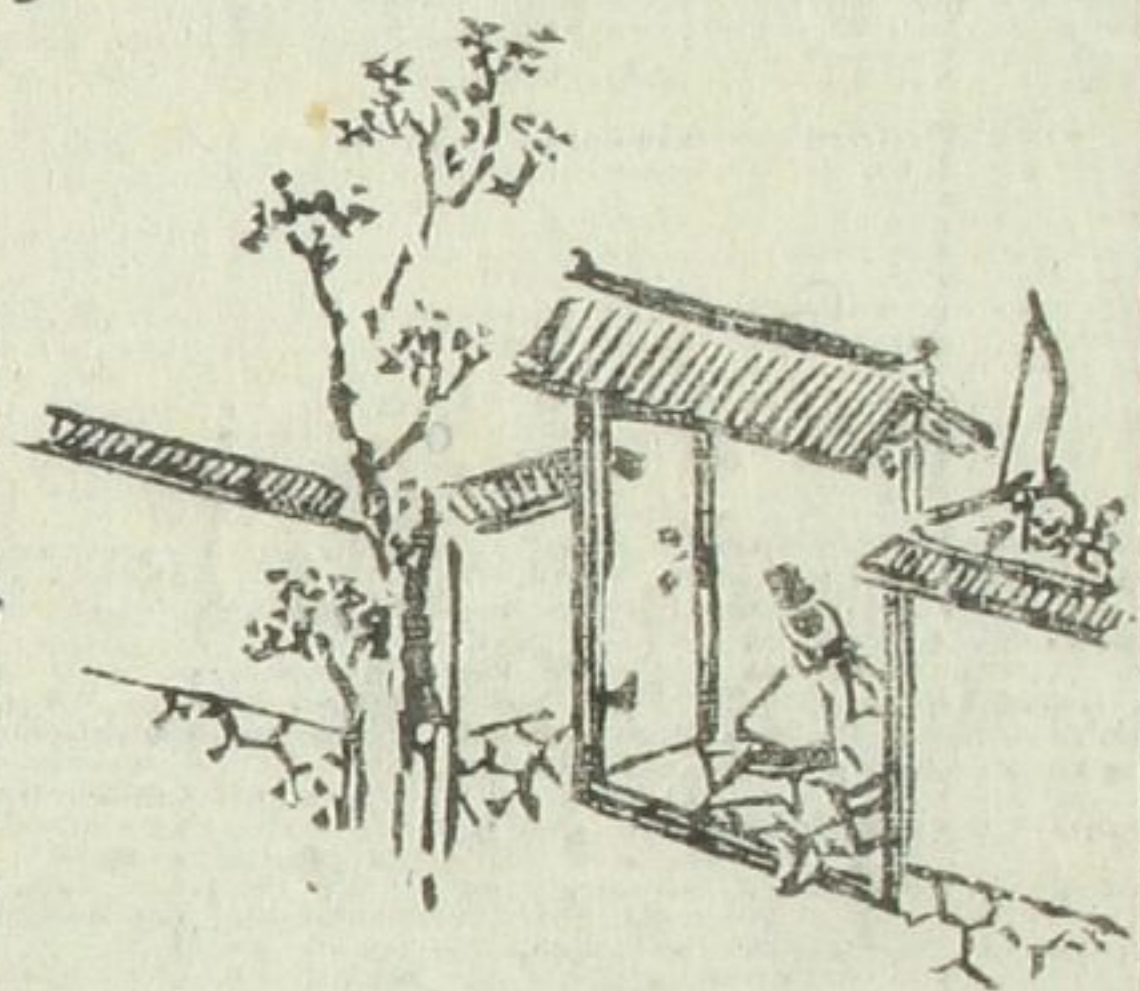


因防内侍  
お大徳  
あつた  
かき  
けこ

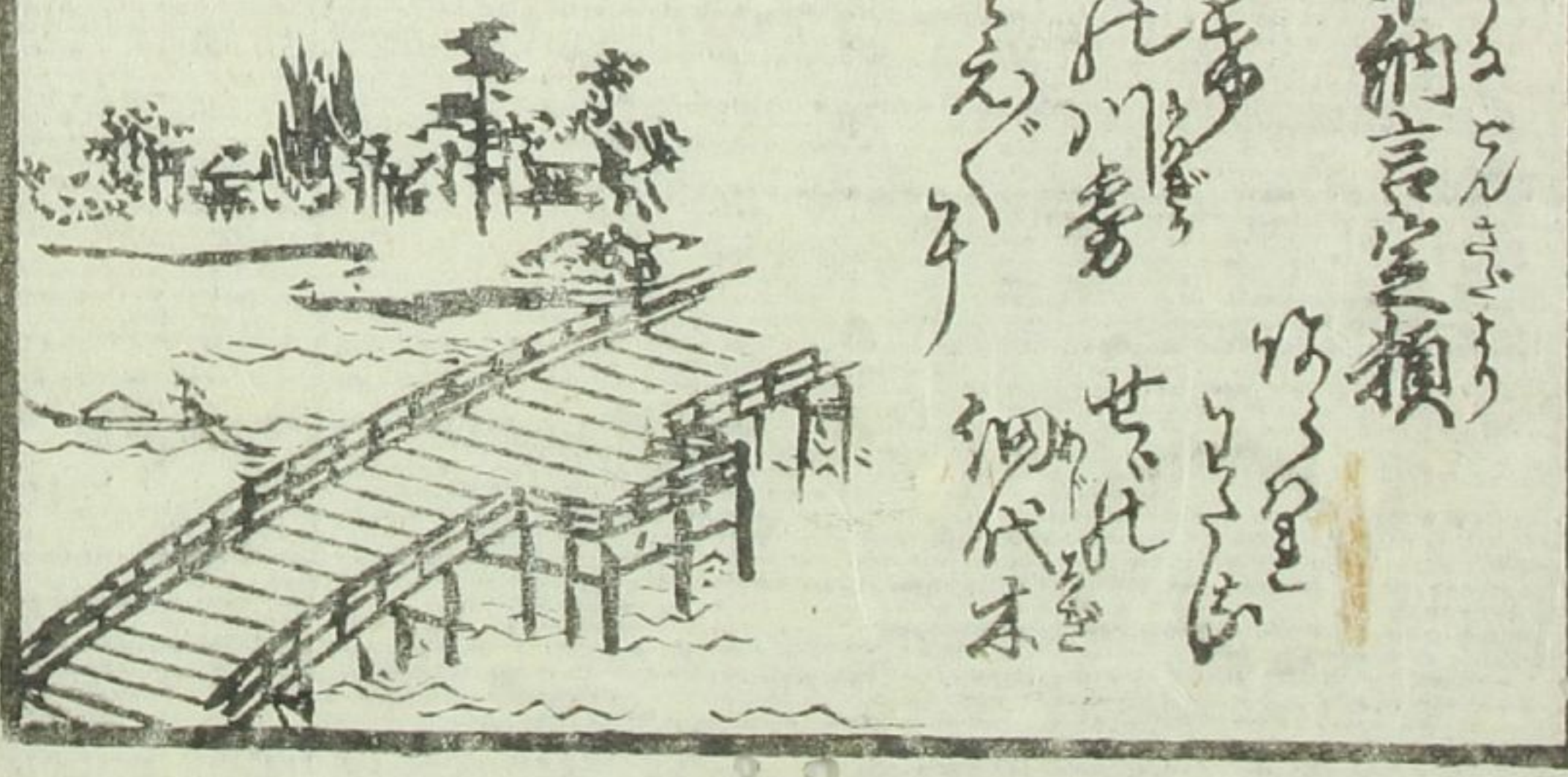


清水納言

あつた  
かき  
けこ



お大徳  
あつた  
かき  
けこ



精中納言定頼

あつた  
かき  
けこ



大納言権佐  
冬目六門田の  
あはば

あはば  
あはば  
あはば

紀伊  
紀伊

あはば  
あはば  
あはば

市井納言匡房

あはば  
あはば  
あはば



三條院

あはば  
あはば  
あはば

結月

法師

あはば  
あはば  
あはば

良選法師

あはば  
あはば  
あはば



崇徳院

源氏物語  
崇徳天皇  
御宇  
源氏物語  
崇徳天皇  
御宇



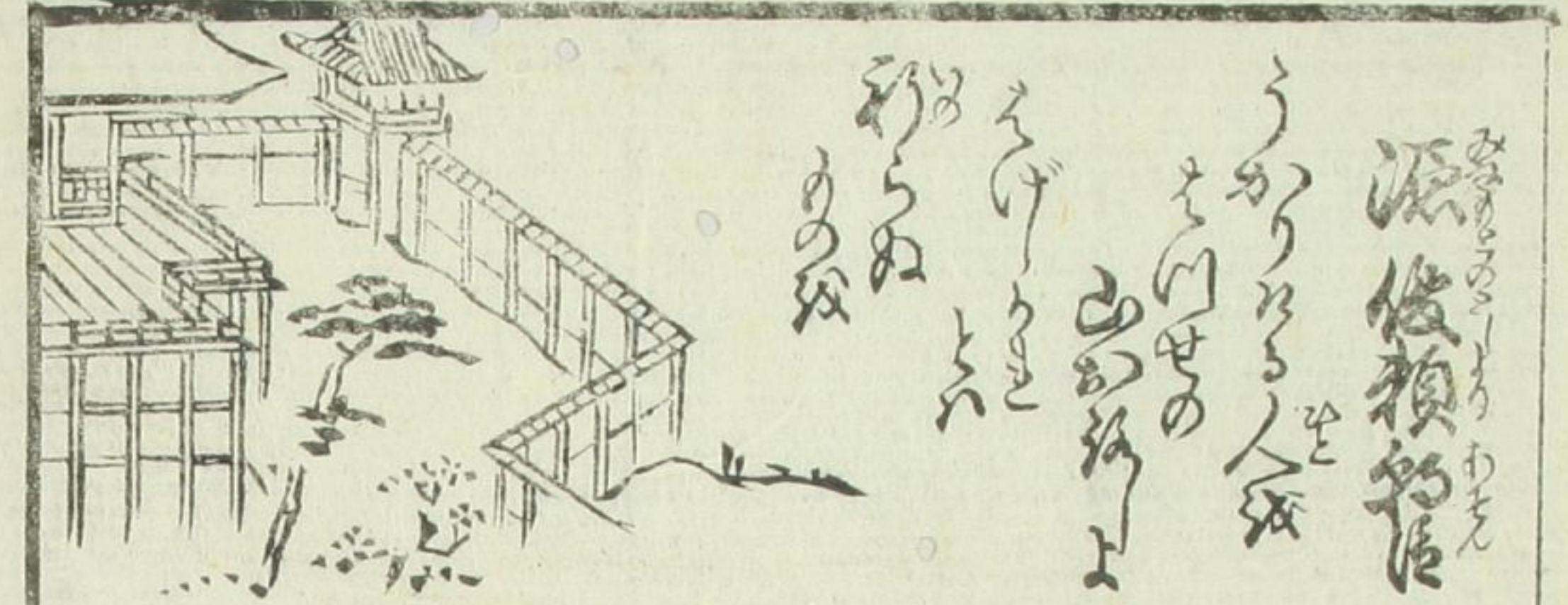
源兼昌

源氏物語  
源兼昌  
御宇



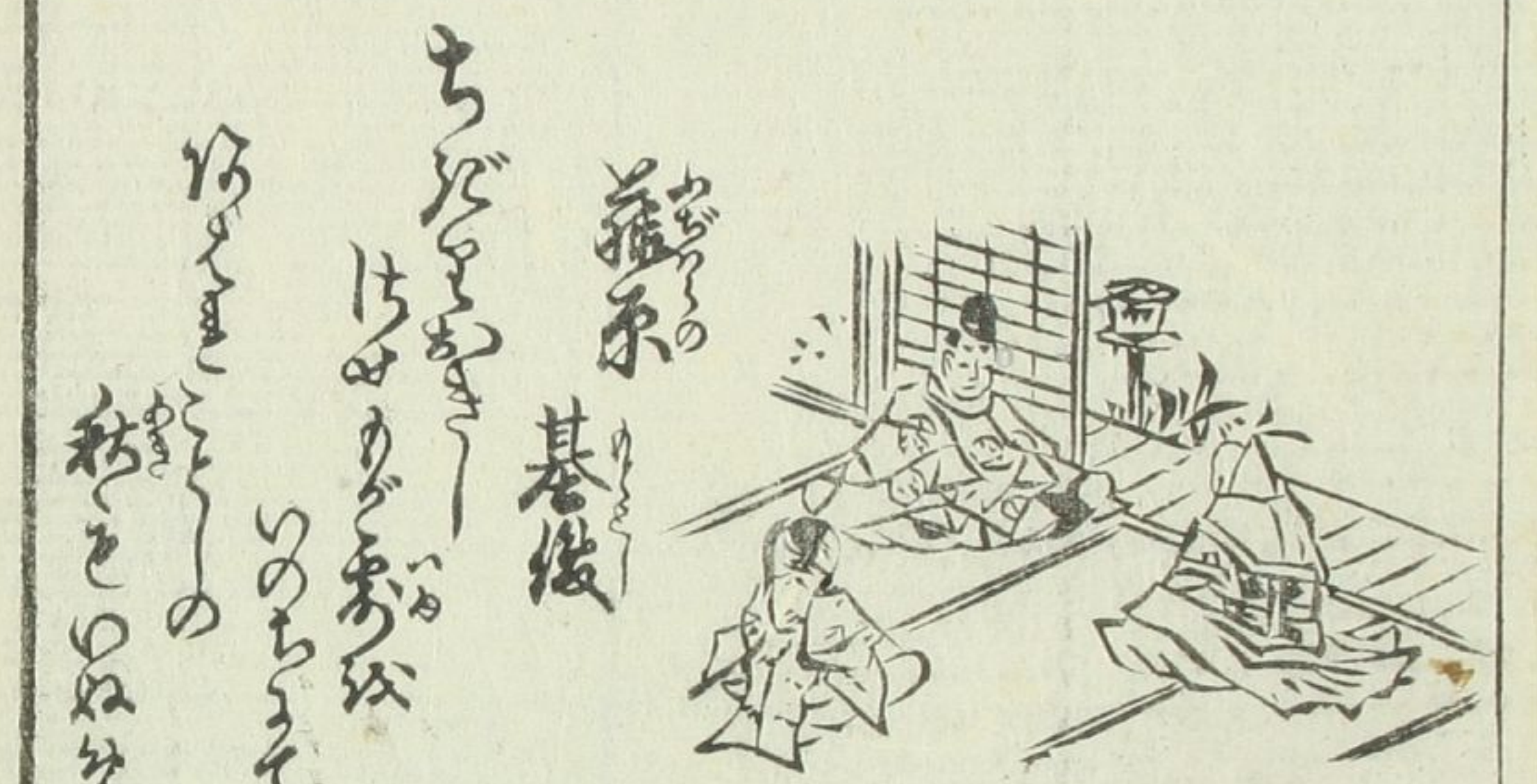
左大臣源頼朝

源氏物語  
左大臣源頼朝  
御宇



源俊賴

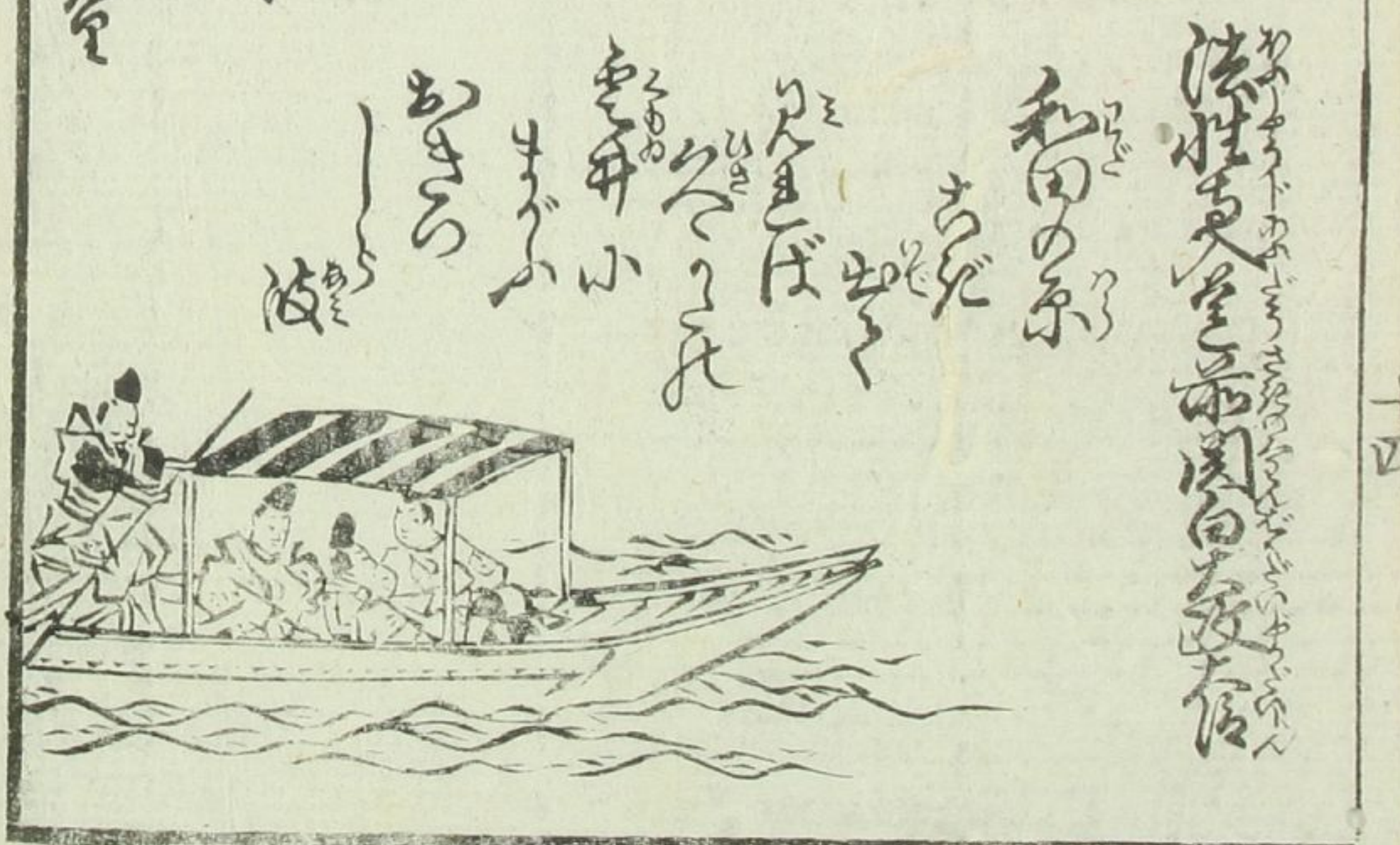
源氏物語  
源俊賴  
御宇



源頼朝

基俊

源氏物語  
源頼朝  
基俊  
御宇



源氏物語

源氏物語

源氏物語  
源氏物語  
源氏物語



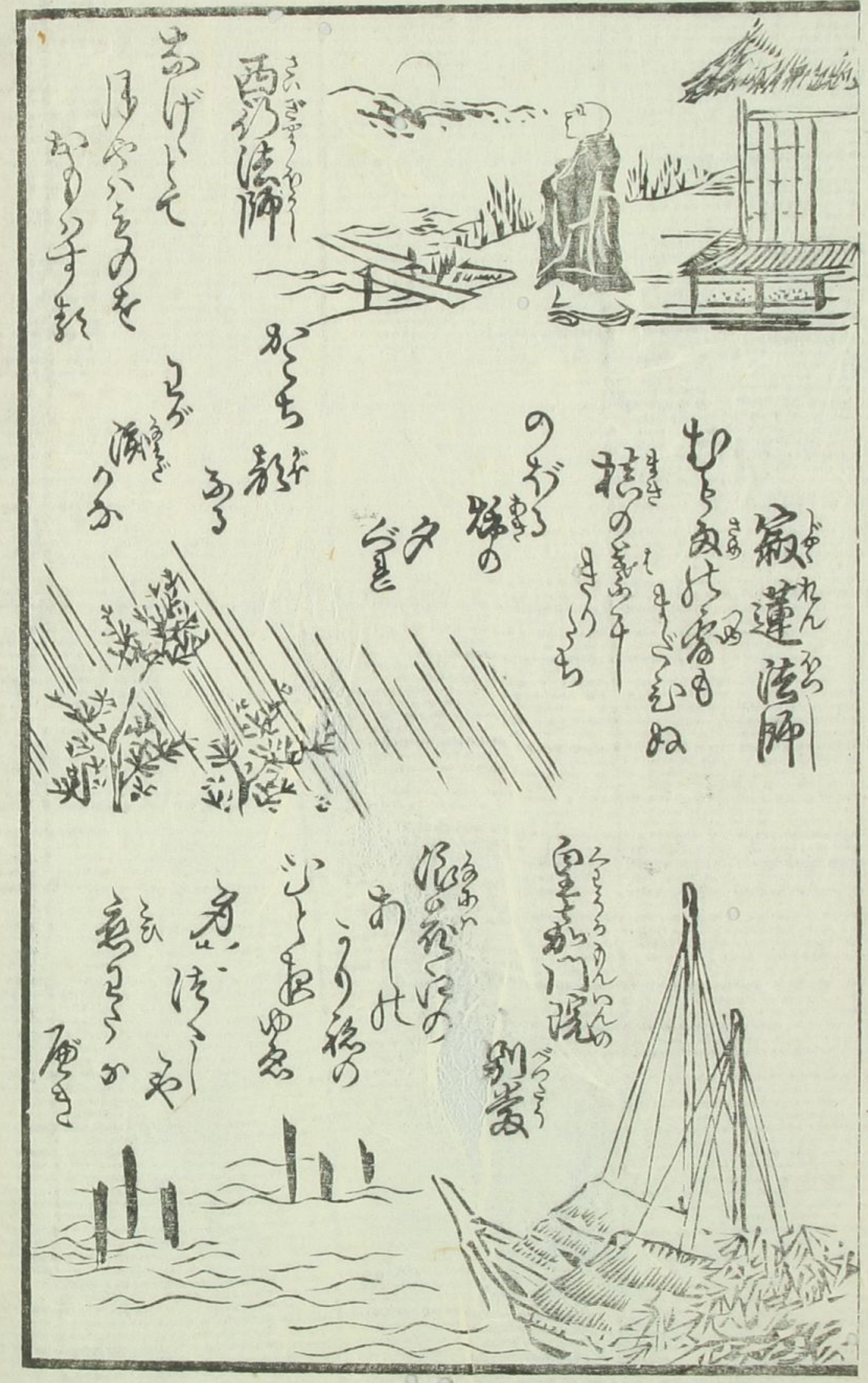




おののち  
おののち  
おののち

船  
大浦  
おののち  
おののち  
おののち

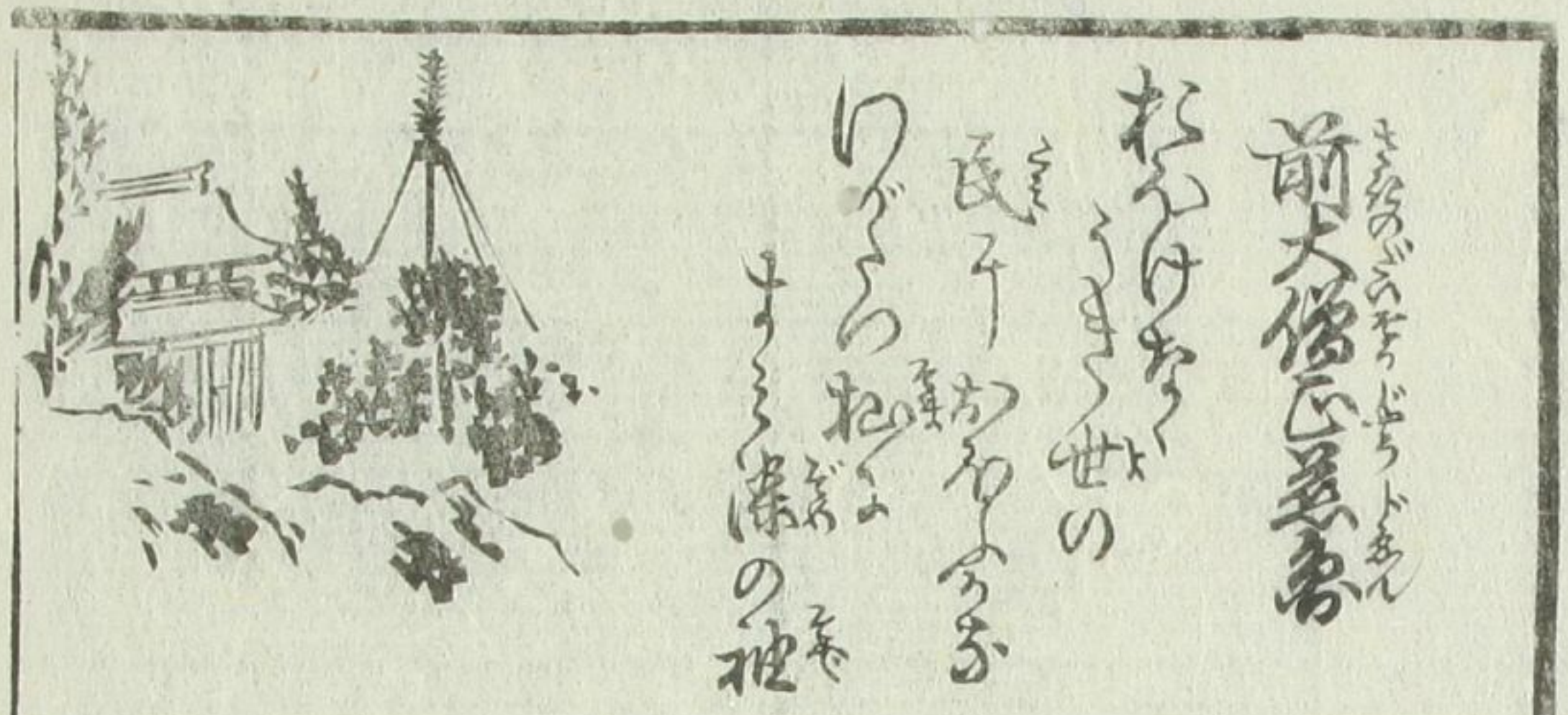
後系  
おののち  
おののち  
おののち  
おののち



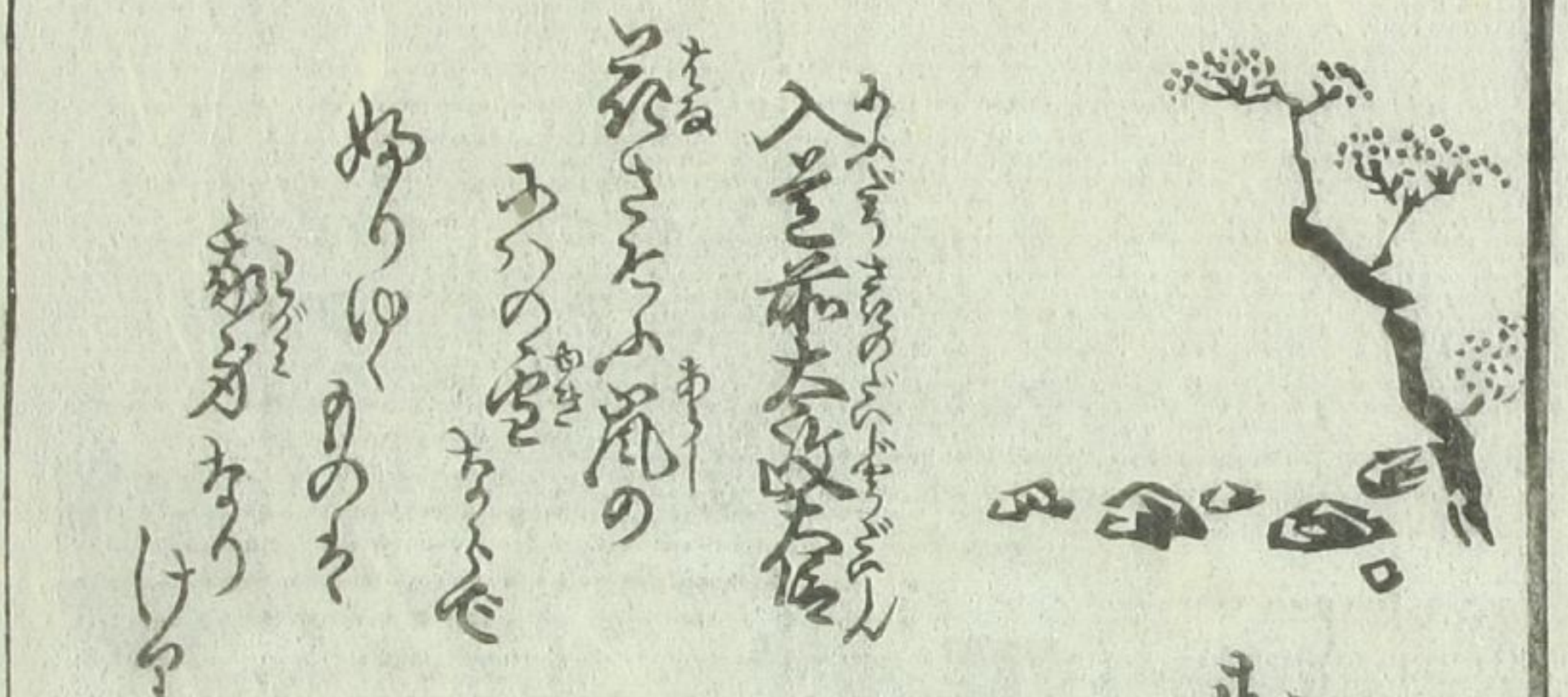
西乃法師  
おののち  
おののち  
おののち

寂蓮法師  
おののち  
おののち  
おののち

おののち  
おののち  
おののち  
おののち  
おののち



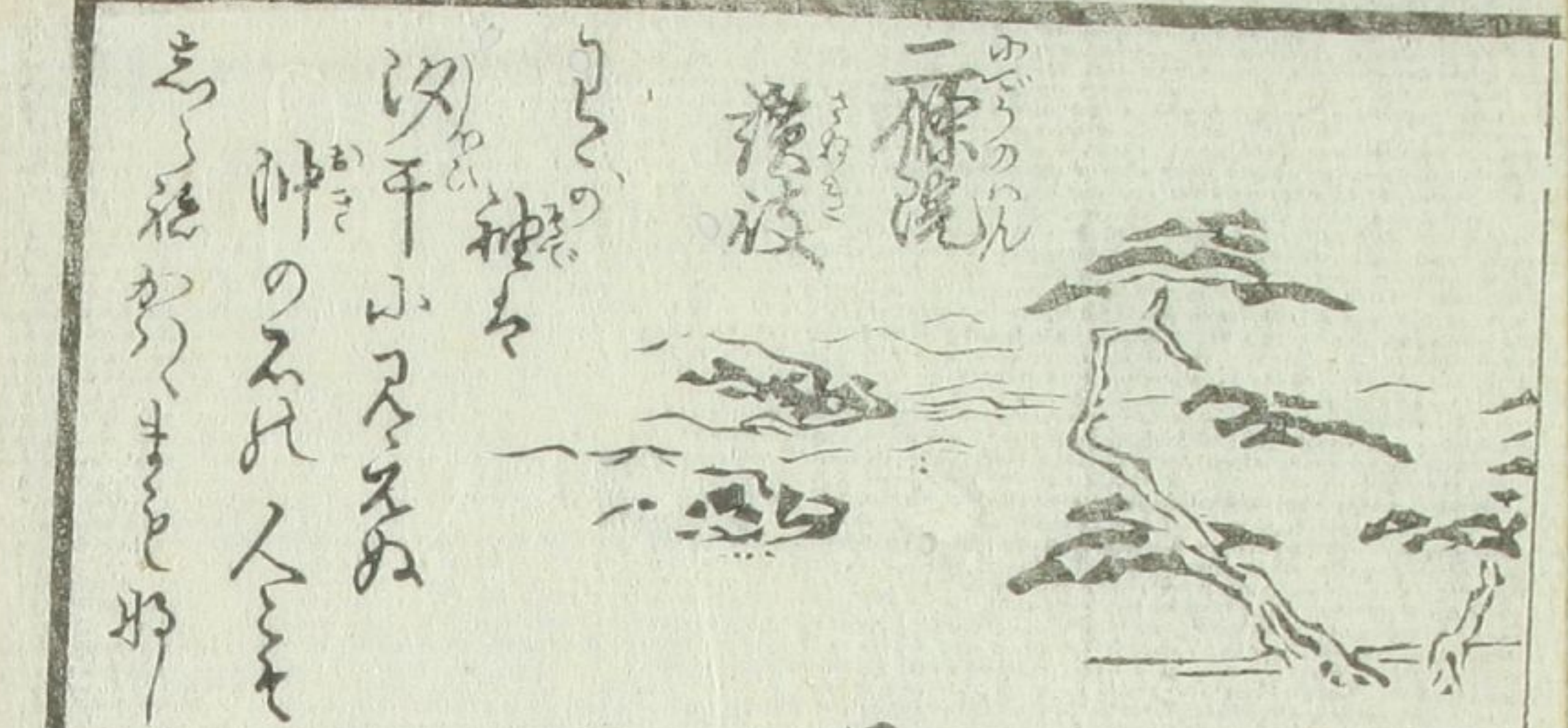
前大僧正の御  
 松ヶ崎の御  
 氏子御ゆるか  
 けの御ゆるか  
 けの御ゆるか



入道大僧正の御  
 松ヶ崎の御  
 けの御ゆるか  
 けの御ゆるか  
 けの御ゆるか



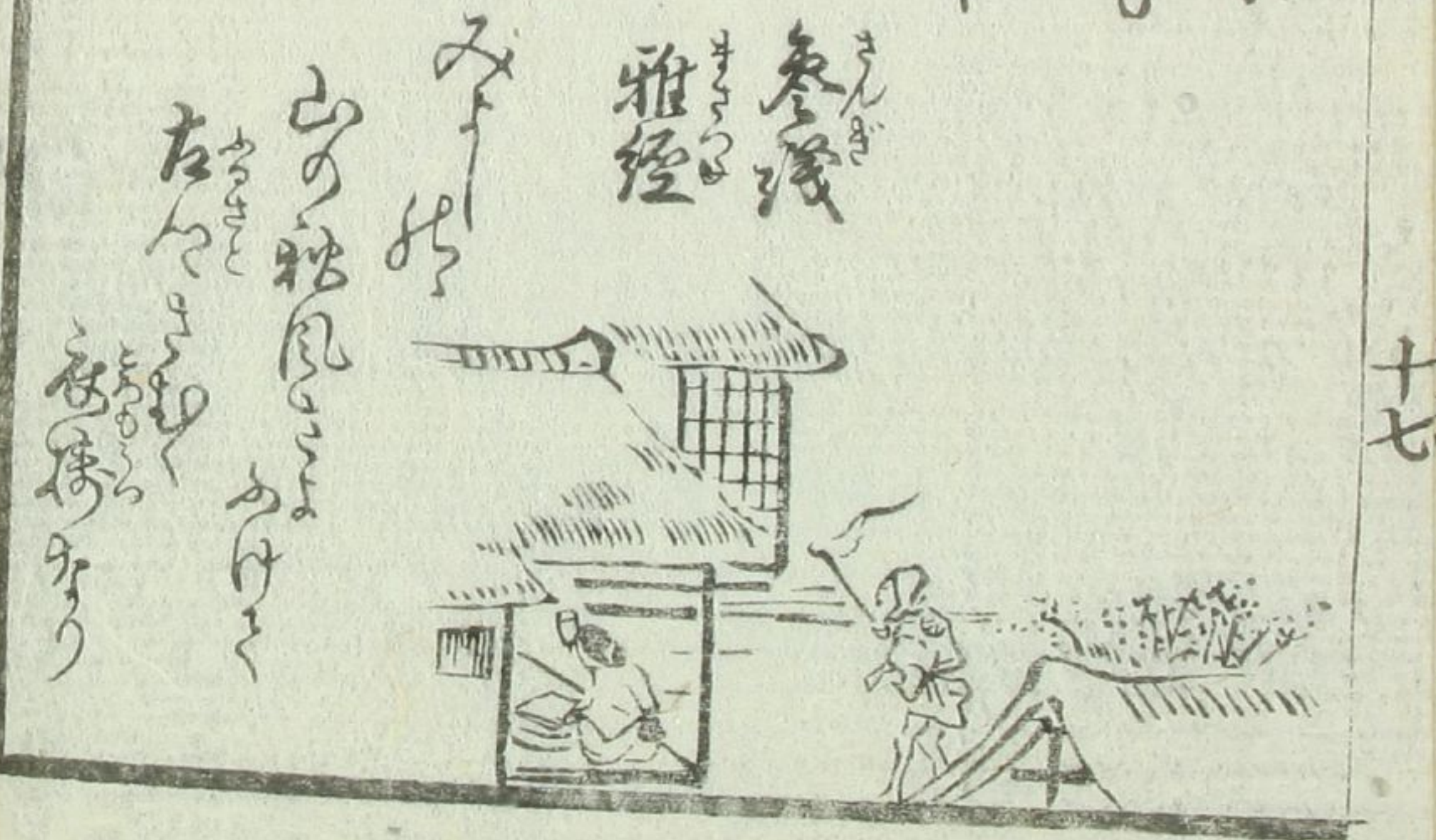
権中納言の家  
 来ぬ人をまつ  
 夕なごころ  
 けの御ゆるか



源院  
 神々  
 次平山々々  
 神のふれん  
 けの御ゆるか

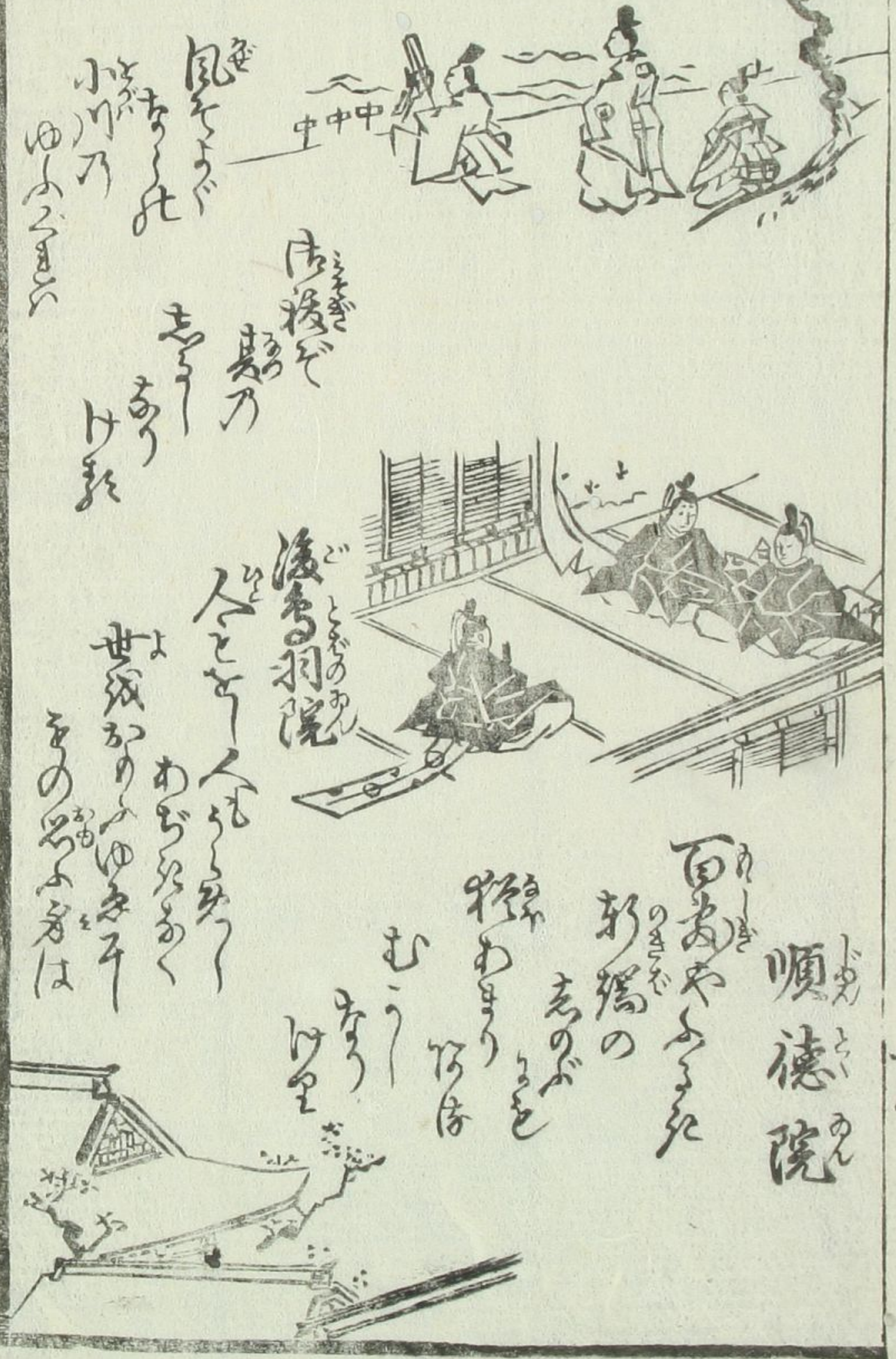


世の中は  
 番のふれ  
 けの御ゆるか



雅經  
 山の中  
 けの御ゆるか

隆家伝之証



此の位方の先者西院うかりんとあふ人身を法めを  
 正しくと神を物を目と穿て百人二首の本をふふと他意あ  
 ち右へひききしつゝあまをたれあふ所とあふあふ人持せき一対  
 押へしあま目紙ひきまてんるなりこそ押へるあれ中よある  
 の字を教毎の字の教ふとふお梅の雨と茶の教を合せ  
 教せりまよとああ教の中をハツしるなりしきうて鑑を  
 ある教ゆて一の卦二の卦をわたりたりたしん  
 秋の田のかりやの鳥のさほ成あふ  
 けり なるま なるま なるま

右の文は...の文は...に...これか年の刻る...九...九...  
 十九...  
 十九...  
 十九...  
 十九...  
 十九...  
 十九...  
 十九...

一の卦



第一の  
 君の  
 八百里  
 神の  
 新...

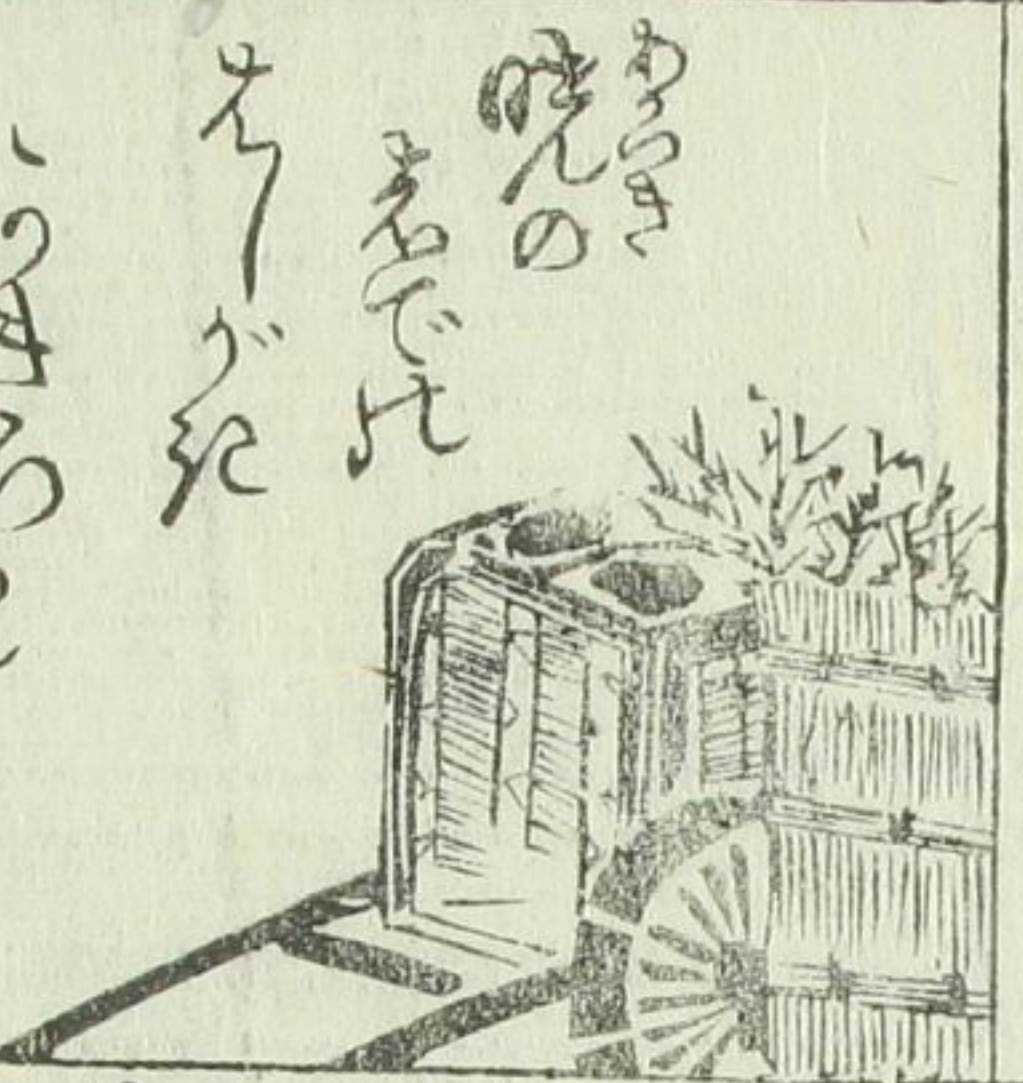
上...  
 君の...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



二の卦の判断

○重なる叶あべー。得物のあり。侍人の来。此をとも。益は  
 ○出行の吉なり。○常の石澤あり。○病の大小あり。○方角ハ  
 北より来り。○物の色の黒。○重なる。○時刻の定。○時り知  
 の時なり。○死。○勝負の負なり。○失物の出。○し  
 但し人分。隠。かく。あ。ん。う。勝。を。養。く。尋。く。熱。く。控。け。け。け  
 三の毒。よ。あ。ひ。て。を。出。び。と。ま。ら。ず。の。お。と。あ。ら。ま。ら。ず。と。死  
 徳が自然。出。あ。る。なり。何事。も。目。上。の。蓋。と。う。け。て。せ。う。く  
 す。ま。ら。ず。事。あり。と。あ。ら。べ。ー

三の卦



○つぎの光る  
 百おも  
 丸おせん  
 とら

この卦の深きのおお。小町ののど。百夜  
 かく。ひ。て。熱。の。か。る。の。ざ。り。お。も。り。死。と。と。く  
 三つ。が。何。の。も。を。こ。の。叶。ひ。く。う。出。来  
 ち。か。に。な。り。て。も。細。り。ぎ。を。あ。く。あ。ひ。き。り  
 止。ま。が。う。一。を。死。ふ。か。あ。ん。と。す。れ。が  
 苦。勞。の。こ。し。て。益。なり  
 但し。重。の。為。取。の。と。た。れ。小。形。か。り。あ。ら。ば  
 信。む。けん。ぶ。し。新。く。べ。ー。十。の。の。の。の。め。つ  
 叶。ひ。て。未。の。吉。なり

三の卦判書

午ののちつかく。○湯物のおそくあり侍人のさるるあり。○此乃  
 よろしくもせ。○夢の女の怒なり。○お尋の常なり。○痛氣の早く  
 吉也あぶ。○方角の物水なり。○物の色の白いう。あは  
 れのとあぶ。○生起のあねなり。○うせ物の入るをあじより  
 知す。○守いの将の沖らぬなり。○傍角の持たす。○  
 けりあふよりあはくまぶ。○あまのくぬ卦の目か  
 事成はし。○神佛の信ト。○時長のあつをまの  
 才一とあぶ。○

四の卦



色候の将のいんてんすたのあは  
 象あまのあはくまぶのあはくまぶ  
 本はくげふか。○あまのあはくまぶ  
 ことく。○あまのあはくまぶ  
 義はゆふらつ。○あまのあはくまぶ  
 ちるひる。○あまのあはくまぶ  
 けん。○あまのあはくまぶ  
 弟のこのあはくまぶ。○あまのあはくまぶ  
 由て吉也あはくまぶ。○あまのあはくまぶ



四の卦判書

形ひ重なるをわきまけしむるは、時を失ふ事なり。得物の事を知られどあり  
 〇侍人の早く来るは、甲斐なる事なり。〇如月の吉あり。〇雲の生  
 るるは、〇氣美の法師なり。〇病ひての長びくべし  
 〇方角の北南なり。〇物のるる赤し。〇らせめの矢、まわらぬ  
 人が隠し、ふあゝみびつし、仕まひ志事なる事なり。〇難守の  
 事、た方なり。〇勝負の事、吉なり  
 まぐれ、れみ、と長く、信実を、清く、善哉、の事ひ  
 の、やう、ふ、ち、そ、ひ、と、成、は、し、む、べし

五の卦



この卦のいふ、くたのり、死、あ、なり、ま、ん  
 〇人の身、ま、ま、の、け、ま、は、た、と、り、ま、ま、の  
 〇ま、ま、ふ、より、く、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇時、あ、り、て、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇時、あ、る、れ、ど、も、り、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇ぬ、と、り、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇と、り、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の  
 〇ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の、ま、ま、の



六の卦判書

○形命の叶あべー○是物の出る方一出づともそるるの種あり  
るー○得たにおし進一○物に未だる復りありぬるの言  
なり○家の女の怒も○是果の毒虫のうごひなり○病ひに  
あけきども申復まぐー○方角の北東○物のまの白く黒  
○是物のかくーなる人あり○勝負の七分勝なり  
はむ毒にあたりー人の只何となくゆらゆらふたし  
まじりみさのまぐぬ来つらま由叔子孝初まぐ  
まをぬかろくぬまきうふすあぐーすー

七の卦



あはれ乃  
あはれ乃  
あはれ乃  
あはれ乃  
あはれ乃  
あはれ乃

この卦の心はくくわ義を礼を履入と教  
みちびくぬるまぐあーゆらゆらとあ  
せふすまぐまぐあはれぬるまぐーまぐまぐの  
弱も何やまひくとまぐあはれぬるまぐ  
なるものなり別あまぐーゆらゆらとあ  
まあまぐーあはれぬるまぐまぐまぐ  
すまぐあはれぬるまぐまぐまぐまぐ  
なるるまぐまぐまぐまぐまぐまぐ  
はとまぐまぐまぐまぐまぐまぐ



英人とも知れど、英人とも知れど、胡胡人胡人の出入りありぬ。王昭君の如く、王昭君の如く、漢漢の  
うはらへし。其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。  
其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。  
其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。  
其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。其の如く、其の如く、漢漢のうはらへし。

八の卦判

年多叶ひはじ。失物のぞ。知れぬあり。湯物の多。  
あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。  
なり。物の多。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。あまのぞ。  
神佛を信下。心正し。けいふ。年う。ある者。と。わら。べ。

天保十四癸卯春再刻

吉文字屋市右門原板

東都亀井町書林

藤屋宗兵衛板

